

上川教育研修センター6月研究員授業

旭川市立新富小学校第4学年 社会科 学習指導案

日 時 令和5年6月20日(火) 5校時 実施
 生徒 旭川市立新富小学校4年2組 22名
 指導者 因幡明浩

1 単元名 第2章「住みよいくらしをつくる」 (小学校社会科副読本「あさひかわ」)

2 単元について

(1) 本単元に関わる学習指導要領の目標および内容(抜粋)

【学習指導要領】～第4学年(社会科)の目標と内容～

1 目 標

- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

2 内 容

- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業について、学習の問題を探究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (1) 飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。
- (2) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。
- (ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (1) 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。
- (2) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。

(2) 児童の実態

本単元の学習前に以下の内容で社会科の学習やごみについてのアンケートを実施した。

1	社会科の学習は好きか?
2	自分の知りたい情報を集めたり、まとめたりすることは得意か?
3	問いを見いだしたり、学習問題に対して自分の考えをもったりすることは得意か?
4	単元を俯瞰したシート(鳥の目シート)を用いて自分の学習を調整したり、その日の学習を振り返ったりすることは得意か?
5	ごみについて、知っていることはあるか?
6	ごみを捨てるときに気を付けていることや面倒だと思えることはあるか?
7	学校や家から出たごみは、その後どのようなになっていると思うか?

アンケートの結果から、約半数の児童が社会科の学習に対して好感をもっていることが分かった。一方で、2～4の社会科の資質・能力に関わる質問では、どの項目も半数以上の児童が「どちらでもない」または「苦手」に丸を付けた。そこで、単元を通して確実に資質・能力を育成するための個別最適な学び、協働的な学びを充実させることや、身に付けた資質・能力や社会的な見方・考え方をを用いて問題解決的な学習を行うことができるように学習材や学習環境の準備をする必要がある。

また、5～7の質問では、ごみに関する現時点での児童の認識を確認した。質問5では、「汚い」や「くさい」、「使い終わったもの」といったマイナスのイメージが先行している児童がほとんどであった。質問6では、「分別するように気を付けている」と記述している児童がいる一方で、「どのように分別したら良いのか分からない」と感じている数も多かった。質問7では、ほとんどの児童が「燃やされる」と記述していたが、それ以外の具体的な処理の過程については理解に個人差があった。以上の実態を踏まえて、ごみの処理や利用について、時間（歴史）、空間（場所）、人（活動・思い）といった社会的な見方・考え方を働かせて調べさせることでごみに対するイメージをより具体的にもてるようにしていきたい。また、単元の学習を通して「ごみ処理は自分たちの住みよいくらしに関わっている」ことを認識し、ごみの減量のために、自分たちにできることを考えることを通して、児童の社会性を育ませたい。

アンケートについては、事前だけではなく単元の中で複数回（「情報収集が終わった後」や「学習問題を解決した後」、「単元の最後」）に実施することで、より児童の学習状況の実態が分かるものとして有効に活用していきたい。

3 単元の目標と評価規準

研究内容(1) 目標と評価の一体化

- ・単元目標の明確化
- ・目標と評価の位置付け

(1) 単元の目標

- ① 旭川市の生活環境に配慮しながらごみが安全かつ衛生的に処理されたり、清掃工場やクリーンセンター、廃棄物処分場などの関係機関が相互に連携して処理や再利用されたりしていることについて理解するとともに、ごみを処理する事業が旭川市の生活環境の維持と向上に役立っていることについて、関連する施設の見学・調査から必要な情報を集めたり、資料などで調べたりして図表にまとめる技能を身に付ける。

[知識及び技能]

- ② 「分別して出され、収集されたごみや資源は、どのようにして処理されるのか。」という学習問題に対して、処理の仕組みや関係機関の連携・協力について調べたことを手掛かりに文章で記述したり、ごみを処理する事業についてまとめたことを基に話し合ったりして表現することができる。

[思考力、判断力、表現力等]

- ③ ごみを処理する事業について、主体的に学習問題を探究し、解決しようとしたり、学習したことを基に社会生活に生かせることを考えようとしたりする態度を身に付ける。

[学びに向かう力、人間性等]

(2) 単元の評価規準

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 教科書や資料での調べ学習、施設の見学・調査において、必要な情報を集めたり、調べたりしてごみがどのように処理されているか、理解している。 ② 調べたことを基に図表や文にまとめて、ごみを処理する事業は、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	① 社会的事象の見方・考え方を働かせ、処理の仕組みや再利用などに着目して、問いを見いだしている。 ② ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付けて、ごみ処理の事業の様子をワークシートに表現している。	① ごみを処理する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を探究し、解決しようとしている。 ② 住みよいくらしのために自分たちができることについて考える際に、学習したことを基に自らの興味・関心に応じた課題に向かいながら、自分に合った表現方法で表そうとしている。

(3) 評価規準の具体化の過程

評価規準の設定において、小学校学習指導要領解説社会編（以下、指導要領）で示されている「目標と内容」と「学習活動」を基に、本単元で目指す児童の姿を具体的に表した。そうすることにより、教師の評価の精度を高めたり、規準を児童と共有してゴールイメージを明確にしたりすることをねらった。以下、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校社会/文部科学省 国立教育政策研究所」（以下、参考資料）に掲載されている「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を基に、評価規準の具体化の過程を記載する。

「知識・技能①、②」について参考資料では、「【1】廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。」、「【2】見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめている。」としている。この内容からは、どのような学習過程を踏むことで、【1】に示されているような理解に辿り着くのが不明瞭であると考えた。そのため、【1】で示されている内容を理解するための過程を2つに分けて(規準の①と②)考え、それぞれに【2】で示されている具体的な学習活動を取り入れ、上記のような児童の姿を規準として設定した。

「思考・判断・表現①、②」について参考資料では、「【1】処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための【2】事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、【3】表現している。」としている。※【1】児童は、社会的事象の見方・考え方を働かせ、廃棄物をどのように処理しているか、再利用にはどのような方法があるか、どのような関係機関や人々の協力の基に成り立っているかに着目していく必要がある（指導要領 P56 より）。これらの視点をもつことで、学習問題の解決につながる問いを見いだしていくことができると考えた。また、※【2】児童が思考するためには、ごみ処理の仕組みや人々の協力関係が良好な生活環境と関連付いていることに気付く必要がある（指導要領 P56 より）。そして、※【3】それらを表現する方法としては、学習内容の関連性に気付くことに難しさがあるという児童の実態も踏まえ、ごみ処理事業の様子を自作のワークシート（別紙参照）に表現させるという上記のような児童の姿を規準として設定した。

「主体的に学習に取り組む態度①、②」について参考資料では、「人々の健康や生活環境を支える事業について、【1】主体的に問題解決しようとしたり、【2】よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。」としている。※【1】児童が主体的に問題解決に取り組むためには、学習に対して粘り強く取り組む態度と自らの学習を調

整する態度が必要である。そのため、学習計画に沿い、学習を振り返ったり見直したりする姿が必要であると考えた。また、※【2】学習指導要領の「学びに向かう力、人間性等」の育成に関する目標において、「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う」（指導要領 P50 より）という記載がある。ここからは、学習の成果を基に生活の在り方やこれからの地域社会の発展について考えようとする態度を養っていく必要があると解釈できる。このような資質・能力を身に付けていくためには、

- ・本単元での学びを自分たちの生活と結び付けて考え、児童一人一人が「住みよいくらしのために、自分たちにできることは何か」という問いをもつこと
- ・その問いの解決策は多様にあり、自らの興味・関心に応じた課題を追究すること
- ・解決策を示す表現方法も多様にあり、児童の学習経験に沿った方法で表現することが必要であると考え、上記のような児童の姿を規準として設定した。

4 資質・能力の確実な育成

4-1 単元全体のイメージ図

指導計画	つかむ	調べる		まとめる・生かす
	単元の見通しをもたせる	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学習を進めていくための学び方を指導する ・ミニテストを通して自己省察を促す ・ごみ処理の過程について解ね理解させる ・見学・調査で何を調べるか明確にさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を集めたり、図表にまとめたりする ・技能を身に付ける手立てや環境を整える ・見学や調査で学んだことを整理・分析させる ・「まとめる・生かす」に向けた問題意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題の解決を促す ・住みよいくらしのために、自分たちにできることを考えさせる ・学習の成果を振り返らせる



研究内容(2)指導計画・評価計画

・単元構成の工夫 ・形成的な評価の充実



※本単元で使用した自作のワークシート資料です。

(1) 単元の指導計画について

本単元では、ごみを処理するためのさまざまな取組は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められ、地域の人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解させ、住みよいくらしのために、自分たちにできることを考えさせる。そのため、3つの問題解決的な学習の過程で構成した。

「つかむ」段階では、ごみを実際に分別する活動、ごみに関するイメージ（単元開始前に行った事前アンケートの結果）や旭川市が抱えるごみに関する問題点を知らせることで

① ごみの分別、処理についての気付きや問い

（例）何のために、細かく分けているのだろう。

② 学習問題の設定

「分別して出され、収集されたごみや資源は、どのようにして処理されるのでしょうか。」

③ ごみ処理の過程の資料（写真）から学習問題に対する予想

（例）ごみは、さまざまなところに分けられて処理されている。

④ 住みよいくらしを実現するために、ごみの減量などについて自分たちにできること

（例）自分は、学習したことを基にして「旭川未来創造ポスト」にアイデアを提出したい。

を児童と共有し、学習計画を立て、単元の見通しをもたせていく。

「調べる」段階では、学習計画を基に、副読本の資料や資料集「美しいまちに」を見たり、「近文清掃工場」での見学、「クリーンセンター」の出前講座を活用したりして、収集されたごみや資源の処理の仕方について調べていく。資料から情報を収集する際（2～4時間目）には、自分に必要な情報を効率よく集めることができるように手立てや教材を準備していく。5時間目にミニテストを行い、ごみの処理の過程について、概ね理解した状況で清掃工場の見学やクリーンセンターの出前講座に臨むことができるようにしたい。

見学や調査の場面（6～8時間目）では、自らの力で情報を収集する中で実物を見て確認して学びを深めたり、生まれた気付きや疑問について職員の方に尋ねたりする。その後、見学や調査で学んだことを共有・整理し、学習問題の解決や学習の個性化を進めていくことをねらう。また、調べる段階でも、ごみの処理と自分たちの生活との関わりを意識できるように働き掛けたり、旭川市のごみ処理の抱える問題や解決に向けた努力について知り、問題意識を醸成させたりすることで、その後の活動へスムーズに移行させていきたい。

「まとめる・生かす」段階では、これまで調べてきた情報をまとめ、学習問題の解決を図る。家庭から出されたごみが処理される過程を文章や図表などを用いながらまとめることができるようにする。また、自分たちの住みよいくらしとごみ処理事業の結び付きを学び、今後も維持させていくために、ごみの減量やリサイクルなど自分たちにできることを文章で書いたり、「旭川未来創造ポスト」にアイデアを提出したり、学校での取組を充実させるようなポスターを制作したりするなど、個々の児童の興味・関心に応じた学習を深め、広げていくことができるようにしたい。12時間目では、これまでの学びの成果を振り返り、身に付けた資質・能力や自らの成長を実感できるように促す。

単元構成の工夫として、本来は単元後半に位置付けられている「旭川市が抱えるごみ処理の問題について」の学習内容を単元の導入段階で取り上げた。こうすることで、単元後半の「住みよいくらしのために自分たちにできることを考える活動」に向けての興味・関心を引き出すことを目指す。また、2～4時間目は、一斉授業・一斉指導の形ではなく、児童が自由な進度で学習を行う。児童が学習問題の解決に向け、与えられた時間の中で情報収集の仕方や進度を自己決定して学習を進めていくことができるように手立てや環境の設定を準備する。

(2) 単元の評価計画について

「知識・技能」の評価については、主に「調べる」段階で行う。2～4時間目では、与えられた時間の中で進度や学び方を考え、さまざまな資料から必要な情報を集めることができているかを評価する。5時間目では、ごみ処理の過程について適切に理解できているかを Form で作成したミニテストで評価する。児童がその結果から学び足りない知識を理解したり、見学や調査で調べたいことを明確にしたりすることで、児童が自らの学習を調整したり、改善したりするなどの学習改善や教師の指導改善につなげていく。6、7時間目の見学や8時間目の調査では、事前に作成したシートを基に、自分の知りたいことについて能動的に、的確に情報収集することができたかを評価する。総括的な評価については、関連施設への見学・調査を経て、必要な情報を集め、調べたことを基に図表に表すことができているかを9時間目に行う。

「思考・判断・表現」の評価については、主に単元の導入と終末部分で行う。導入部分では、ごみがどのように分別や処理がなされているのか問いを見いだす場面で適切に学習問題を設定することができているか一人一人の記述から評価する。また、11時間目では、学習問題に対する自分の考えをまとめる際に、単元を通して身に付けた知識を組み合わせ、ごみの処理について概念化することができているかをワークシートで総括的に評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、1時間目に学習の見通しをもつことができているか、個別最適な学びを実現できるように学習計画を立てているかを評価する。また、学習を進めていく中で児童が粘り強く取り組んだり、学習問題に対する自分の立ち位置を把握して（例：自分は今、〇〇%解決している）、自己調整したりしている姿を形成的に評価していく。総括的な評価については、住みよいくらしのために自分たちにできることを考える活動を通して、これまでの学習を振り返り、旭川市が抱えるごみ処理の問題について、主体的に考えることができたかを単元の学習を俯瞰した振り返りシート（鳥の目シート）や行動観察などから評価する。

形成的な評価を充実させるため、「2—(2) 児童の実態」にあるアンケートを複数回（学習前、情報収集終了後、学習問題解決後、単元の学習終了後）実施する。同じ質問内容に答えさせることで児童の変容（ごみに対するイメージや資質・能力を身に付けた実感等）を見取りやすく、児童の学習改善、ひいては、教師の指導改善へとつなげていきたい。

4-3 研究内容(3)個別最適な学び、協働的な学び

・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

(1) 指導の個別化について

一定の目標（B 基準）を全ての児童が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進めることができるように必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材の工夫を行う。

- ・単元の導入で前単元の学習を想起させたり、学習計画を児童と共に作成したりすることを通して、資質・能力を身に付けた単元の終末部分の具体的な姿をイメージできるようにする。
- ・「鳥の目シート（学習計画・振り返り）」を用いて、自分の学習状況を把握できるようにする。
- ・単元前半部（2～4時間目）では、副読本や資料から必要な情報を集めることができるように、調べる視点を与えたり、穴埋め形式のワークシートを用意したりして、知識を定着させることができるようにする。また、どのような方法で情報を集めるかについて、児童と共有する。

- ・ 5時間目に行うミニテストの結果を受けて、理解が不十分な部分を補完する。
- ・ 見学・調査の際には、一人一人が自分の探究したいことについて、どんな視点で調べればよいかを確認し、イメージをもたせる。

(2) 学習の個性化について

異なる目標に向けて、学習を深め、広げることができるように、子供一人一人の興味・関心、キャリア形成の方向性に応じ、学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う。

- ・ 単元の導入部分で実際にごみの分別をさせたり、自分たちとごみとの関わりの実際や旭川市のごみ処理に関する問題を取り上げて紹介したりすることで、自分ごととして捉えさせる。
- ・ 調べたことと自分たちの生活との結び付きについて教師と児童で共有することで、興味・関心を維持できるようにする。また、情報収集が早く終わった児童に対して、自分の探究したいこと（学習の個性化に向けての準備）に取り組む環境を準備する。
- ・ 「住みよいくらしのために、自分たちにできること」について探究していくことや、伝えるためのさまざまな方法（文章・ポスター・スライド・旭川未来創造ポスト）があることを知らせ、単元の終末部分のイメージを共有する。
- ・ 学習の節目ごとにアンケートを複数回実施し、自分の生活とごみ処理との関連について考えさせたり、振り返らせたりする。

(3) 協働的な学びについて

異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出すために、子供同士、あるいは地域の方々をはじめ、多様な他者と協働する。

- ・ 単元の前半は、資料との対話、中盤は、見学調査なので人との対話、後半は、自分との対話や仲間との対話を通して、協働することの必要性を確かめたり、人と協力・協調するなどの社会性を育んだりすることができるようにする。
- ・ 1単位時間の中での学習過程を児童と検討し、それぞれの時間を区切ることで協働の時間を確保できるようにする。

本単元の学習においては、前半では、主に指導の個別化を充実させ、資質・能力を確実に育成すること、後半では、学習の個性化に重点を置いて指導することで児童の興味・関心を生かして社会性を育む。指導の個別化で得た知識を協働的な学びに生かし、協働的な学びで得たことを学習の個性化へ還元していくようなイメージで、個別最適な学習と協働的な学習とを行き来しながら、一体的な充実を図る。1単位時間の中でも個人や集団での学び方を「学習の流れ」として固定する。具体的には、集団での課題共有、個人での情報収集、集団での情報共有、個人での課題解決という流れを基本とし、学習過程や時間配分、評価の場面や方法等を児童と共有しながら決定していくことで個別最適な学びや協働的な学びのよさを感じ取らせたり、そのための素地を養ったりすることをねらう。

また、個別最適な学びと協働的な学びを支える ICT の活用についても積極的に行なっていく。情報収集の際にインターネットを使って清掃工場やクリーンセンターのホームページを見ることが、整理・分析の際に思考ツールを貼り付けたジャムボードを使うこと、住みよいくらしのために自分たちにできることをスライドで発表するなどを通して児童の情報活用能力を育成していく。

4-4 単元の指導計画と評価計画の具体

	学習活動（全12時間）	評価（白抜きの数字は総括的な評価）			
		知	思	態	方法
1 （つかむ）	<p>学習問題を設定したり、単元の見通しをもったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみを旭川市のごみ分別表を基に分別する。 資料から、ごみがどのように分別や処理がなされているのか問いを見だし、学習問題を設定する。 <p><学習問題>分別して出され、収集されたごみや資源は、どのようにして処理されるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみの処理に関わる資料を見て、どのようなことがされているか予想し、学習の見通しをもつ。 単元の終末（自分たちにできることを考える）に向けてのイメージや身に付けたい資質・能力を共有し、学習計画を立てる。（ここまで1時間目） 		①	①	ノート 鳥の目シート
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 （調べる）	<p>副読本や資料、見学・調査などから、収集されたごみや資源の処理の仕方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 副読本や資料を読み取って、ごみの処理の過程を概ね理解する。（2、3、4時間目） ミニテストに取り組み、結果から学び足りない知識を補足したり、見学や調査で調べたいことを明確にしたりする。（5時間目） 清掃工場がごみを処理する様子を見学・調査して、ごみを処理する仕組みや清掃工場の工夫や苦勞について調べる。（6、7時間目） クリーンセンターの職員から話を聞いて、ごみを再利用する仕組みや仕事の工夫や苦勞について調べる。（8時間目） 調べた情報をワークシートに整理する。 アンケートを再度実施して、社会科の学習に関することやごみに対するイメージの変容を確かめる。 「住みよいくらしのために自分たちにできること」についての取組を進める。（ここまで9時間目） 	① ① ① ② ① ② ②	① ① ② ②	① ① ① ②	ノート ミニテスト 鳥の目シート ワークシート 行動観察、発言 ワークシート 行動観察、発言 ワークシート アンケート 鳥の目シート

<p>10 ・ 11 (本時) ・ 12 (まとめる・生かす)</p>	<p>学習問題について、これまで調べてきた情報を基にまとめ、旭川市のごみ処理の抱える問題について、自分たちにできそうなことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題の答えとして、ごみの処理について分かったことや考えたことをまとめ、ワークシートに表現する。 ・アンケートを再度実施して、社会科の学習に関することやごみに対するイメージの変容を確かめる。 ・これまで学んできたことと自分たちとの生活の結び付きを考える。(ここまで10時間目) ・学んできたことを生かして、「住みよいくらし」のために自分たちにできることを考え、それぞれの課題に取り組む。(本時) ・取り組んだ課題(未来創造ポスト、ポスター、スライドなど)をまとめる。 ・鳥の目シート(学習計画・振り返り)を見返したり、アンケートを再度実施したりして、自分の成長を振り返る。(ここまで12時間目) 		<p>②</p>	<p>②</p>	<p>ワークシート アンケート</p> <p>② 行動観察 鳥の目シート 取り組んだ課題</p> <p>① アンケート ② 鳥の目シート 取り組んだ課題</p>
---	---	--	----------	----------	--

5 本時の学習(12時間扱い 11/12)

(1) 展開

1単位時間の学習課題 まとめ **白抜き** 研究との関わり

教師の活動と手立て	児童生徒の思考
<p>1 課題提示</p> <p>これまで学んできたことを生かして、「住みよいくらし」のために自分たちにできることを考えよう。</p> <p>○前時までの学習を確認する。 「ごみはどのように処理されるのですか。」</p> <p>「なぜ、ごみを減らす必要があるのですか。」</p> <p>○ 評価場面や方法を児童と確認する。 指導の個別化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のイメージや手順、評価場面や方法等を提示し、異なる方法でも児童が一定 	<p>児童生徒の思考</p> <p>○ 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「燃やせるごみは、清掃工場で燃やされる」 ・「燃やされた灰や燃やせないごみなどは、廃棄物処分場に埋められる」 ・「でも、処分場には限りがある」 など ・「私たちの生活や環境に関わるから」 ・「住みよいくらしのため」 など ○ 本時のゴールイメージをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・「学んだことを生かして課題に取り組もう」 ・「どうしたら、スムーズに課題を進めることができるかな」 など

の目標を達成できることができるようにする。

- 学習過程を児童と共有する。

「どのような学習の流れにしますか。」

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- ・ 学習過程や学習状況を児童と共有することで、何のために個別や協働で学習するかを考えさせる。

2 課題の追究・解決

- 課題解決のために、個々や集団で取り組ませる。

- 1時間の学習の流れを把握する。

- ・ 「まずは、1人で集中して取り組みたい」
- ・ 「自分と似ているテーマに取り組んでいる人と一緒に考えたらいいかも」
- ・ 「仲間の意見を聞いたら、自分の課題にも生かすことができそうかな」 など

- 自分の課題に取り組む。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

<予想されるつまずき>

- ・ 具体的なアイデアが思い付かない ・ どのように表現したらよいか分からない

→指導の個別化

- ・ これまでのワークシートの記述やミニテストの結果から、個に応じた指導が必要な児童にこれまでの学習を想起させたり、児童の思考を言語化したりする支援をする。

<予想されるつまずき>

- ・ 自分の内容に自信をもったり、よりよくしたりする方法を知りたい
- ・ 困ったときや必要なときに、誰と一緒に学習したらよいか分からない

→協働的な学び

- ・ 誰がどのような課題に取り組んでいるかを板書で提示することで、異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すことができるようにする。

<予想されるつまずき>

- ・ 友達と話し合ったことを自分の取組にどのように生かしていけばよいか分からない

→学習の個性化

- ・ 友達と交流したことで自分の取組に還元できることはないか考えさせたり、取組を伝える目的や相手を確認させたりすることで、個々の児童の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることができるようにする。

<本時の評価>主体的に学習に取り組む態度

対象：これまで学習したことを基に自分たちにできること（社会生活に生かせること）を考えようとしているか

場面：児童が個人思考や集団思考を繰り返しながら自分にできることを考えている場面

方法：行動観察、鳥の目シート（振り返り）の記述、取り組んだ課題

- 数名程度、現在の進捗状況について発表させる。

- 自分の進捗状況を発表したり、仲間の学習の様子を聞いたりする。

<p>3 振り返り</p> <p>○ 「鳥の目シート」に本時の学びを振り返らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><振り返りの視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを基に自分たちにできることを考えることができたか ・ 友達と協働したことで、自分の学びが深まったり、広がったりしたか </div> <p>○ 本時の活動を評価、価値付けし、次時への見通しをもたせる。</p>	<p>○ 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分で調べたことや清掃工場で聞いた話から、ごみを減らすためのアイデアができた」 ・ 「自分が考えた取組が私たちの住みよいくらしにつながればいいな」 ・ 「仲間からアドバイスを受けたおかげで、自分の考えがよりよくなった」 ・ 「この後の作業の見通しが立ったから、次回は何をするかはっきりした」 など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><振り返りの視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを基に自分たちにできることを考えることができたか ・ 友達と協働したことで、自分の学びが深まったり、広がったりしたか </div>
---	---

(2) 板書

これまで学んできたことを生かして、「住みよいくらし」のために自分たちにでき

<p>これまでの学習をまとめたもの</p>	<p>誰がどのような課題で行なっているかが分かるもの（ネームプレートなどを使用）</p>	<p>評価の対象など（本時のゴール）</p> <hr/> <p>児童と共有する学習過程</p>
-----------------------	--	---

6 研究協議の主な内容学習

(1) グループ協議の内容

【研究内容(2) 指導計画・評価計画】

- ・調べ学習やミニテスト、振り返り、見学等により、学習が児童にとって自分ごととなり、意欲付けにつながった。
- ・アンケートやミニテスト（ICT）の活用は、指導者と児童の双方にメリットがあった。
- ・「鳥の目シート」について、児童は1時間の反省を記入していたが、全体の中での達成度的な反省を理想とするのか。振り返りは最後に100%を目指すのか。
- ・本時に至るまでに情報を自由に収集できるように活動させていたのがよい。収集した情報を整理・分析していたことの効果が本時に表れていた。
- ・2～4時間目を各自で情報収集するのは、苦手な子には苦しい時間になるのではないか。
- ・本時における形成的な評価について、困っている子に声掛け、集まったグループに対する助言や問い掛けが適切だった。前時までの見取り、蓄積の成果だと考えられる。

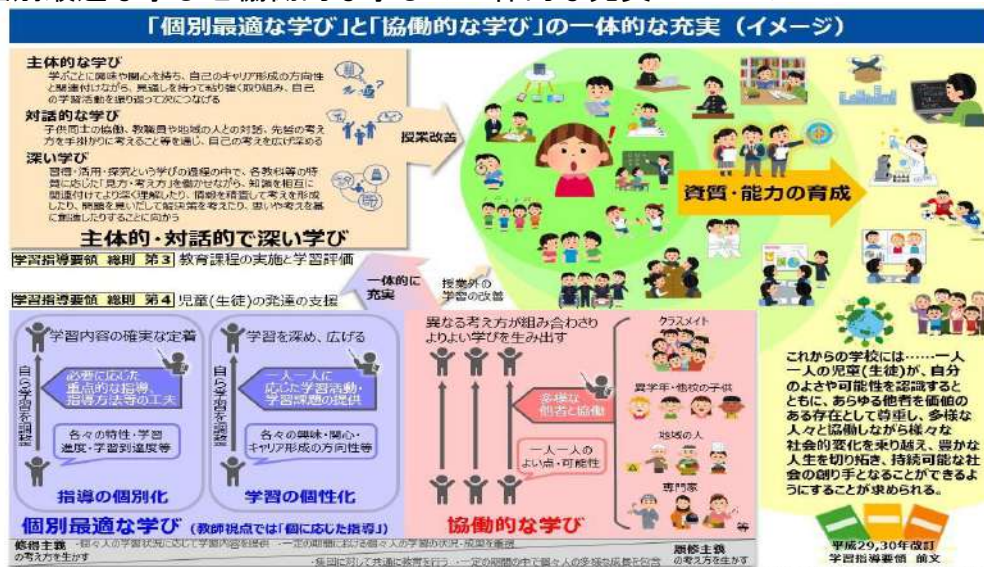
【研究内容(3) 個別最適な学び、協働的な学び】

- ・グループでの話合いが、深めるところまでにはいかず、交流（書き写す）で終わっていたり、誤字脱字の修正に終始していたりしていたところがあった。交流の目的や話合いの仕方を確認するとよい。
- ・同じ課題のグループで取り組むべきだったのか、色々な課題の仲間と意見を共有した方がよかったのかが分からなかった。同じ考えをもつ子で集まると変容しにくいのではないか。
- ・協働するよりも、1人で学習したい児童もいたのではないか。
- ・教えるよりも学び合いになるとよい。上位の子に対する協働の必要感や協働することのよさを味わわせたい。
- ・学習過程を児童と確認し、明示する場面がスムーズだった。個人→集団→個人の流れや探究の流れに児童が慣れていて、すごく楽しそうだった。また、本時の流れは他教科にも適用できる。
- ・グループで学習する意義がしっかりと児童に落ちていた。集団の話合いが活発で有意義だった。それは、個別化の段階がしっかりしているからか。
- ・一人一人が主体的にさまざまな表現方法で学習に全力で取り組んでいた。
- ・学習の個性化が図られていた。

(2) 指導主事の助言

〈上川教育局 教育支援課義務教育指導班 主査 高橋 哲雄〉

① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について



- ・上図に示されているとおり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は一体的に充実を図ることが大切である。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国で一斉臨時休校となった際に、子どもたちは、学校や教師からの指示・発信がないと、「何をして良いか分からず」学びを止めてしまうという実態が見られたことから、改めて、「学びを止めない」、「自立した学習者を育てる」ことの重要性を確かめたい。
- ・学習指導要領総則では、「個に応じた指導」の充実について示されており、教師の視点、子どもの視点で整理し直したのが、「個別最適な学び」であり、全く新しい概念ではない。
- ・「個別最適な学び」においては、自ら調整すること、自分で学びをコントロールしていくことが大切であり、ICTの力を借りることで効果的な学びにつながる。
- ・また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、別々なものとして捉えるのではなく、目的に応じて、組み合わせていくことが重要であり、どのように組み合わせていくかという「授業デザイン」が大切である。
- ・本時では、授業者が、最初に声を掛けた児童は、グループになった際に「ねえねえ、僕ってどうやって伝えればいい？」と友達に尋ねていたが、本児にとっては、この友達との対話が、本時の課題解決のためには必要であったと考える。
- ・子どもには、学ぶ目的があり、教師は、目的を明確にした対話活動や協働的な学びを展開することが大切である。
- ・本時の交流場面では、表現に着目している子、内容に着目している子と、交流する目的は様々であったことから、「子どもは、何を協働的に学びたくて、その場集まっているのか」に着目しながら、「教師は、どのような指導・支援を行えばよいのか」について、実践を重ねていただきたい。

〈旭川市教育委員会教育指導課 主査 森 走平〉

① 単元構成の工夫について

- ・副読本では、本来単元後半で位置付けられているもの（旭川のごみ処理における問題点、自分にできることを考える「生かす」課題）を単元導入で取り上げていた。それによって児童は、学習問題を自分事として捉えたり、問いを持ったりすることができ、主体的な学びにつながったのではないか。
- ・自由進度学習により、与えられた時間の中で見通しをもちつつ、それぞれの興味関心に従って、課題を追及することができたのではないか。副読本には載っていない疑問や課題が生まれ、見学の視点や質問につながり、それぞれの興味・関心に応じて調べたり、課題を追求したりすることができたのではないか。

② 形成的な評価の充実について

- ・本単元では、アンケートを複数回実施していた。ゴミに対するイメージを具体的にもたせたい、自分事として問題を捉えさせたいという授業者の意図が表れていた。このアンケートは、教師にとって、児童の実態を見取る記録に残す評価としても活用することができる。児童にとっては、単元の見通しを持ち、振り返りながら学習を進めることにつながるものである。
- ・ミニテストについて、一般的には、総括的な評価のためのテストという扱いが多いが、授業者は「グーグルフォームなので結果には残るが、児童の実態を捉え、その後の指導に活かすため」に実施していた。即時にフィードバックできる良さを活かして、きめ細かい指導を行うことができるとともに、児童の知識の確認もできる有効な手立てだった。児童に尋ねると「間違ったところがあっても、答えがすぐわかるので、覚えることができて良かったです。」と言っていた。児童自身も、ミニテストのよさを実感していたことが分かる。

7 事後分析

(1) 目標と評価の一体化について

児童生徒の資質・能力を確実に育成するために、単元目標や目標と評価の位置付けを明確化する必要がある。

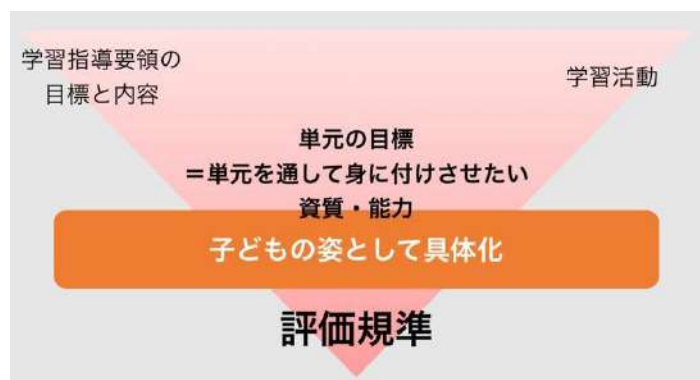
本単元では、①学習指導要領の目標や内容、（国立教育政策研究所の参考資料）②児童の実態や学習内容 ③単元の目標の順に検討を重ね、資質・能力を身に付けた具体的な姿をイメージし、評価規準を作成した。

（参考：指導案P3「(3)評価規準の具体化の過程」）

評価規準を具体化することにより、教師による評価の信頼性・妥当性を向上したり、明確化された単元のゴールイメージを児童と共有できたりすることをねらった。

成果として、資料を基にさまざまな観点をもちながら単元で身に付ける資質・能力や評価規準を検討することによって、単元終末時の児童の姿を具体的に想定し、指導や評価の計画に生かすことができた。また、評価規準を振り返りシート（鳥の目シート）に載せることで、児童は、単元で身に付ける資質・能力を意識しながら1単位時間の目標を設定したり、学習内容や自身の学び方を振り返ったりすることができた。

課題としては、評価規準の作成や具体化を図る際のプロセス（過程）を図表等で一般化すると、授業者にとって、目標と評価の一体化を図りやすくなるのではないかと考える。



（※授業当日の研究概要説明より抜粋）

また、上記①～③のバランスを取ることが指導や評価を見通す上で必要であった。例えば、児童の実態の比重が重くなりすぎると、評価規準のレベルが児童の能力的な部分に左右されてしまいがちになる。あくまでも、学習指導要領や参考資料を基にして評価規準を考えていくとよい。

(2) 指導計画・評価計画について

児童生徒の資質・能力の育成を目指すために、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた学習の実現を目指して授業改善を進めるに当たり、指導計画や評価計画を適切に設定することは、大切になってくる。

本単元では、単元構成の工夫として、本来は単元の終末部で学習する予定の「旭川市のごみ処理の問題点」を導入部（第1時）で指導する計画を立てた。こうすることで、単元の前半から学習の個性化に向けた取組（「わくわくプロジェクト」）を意識することができた。第2～4時の情報収集の場面では、自分たちの生活との関わりを考えながら調べる様子も見られたのは、成果である。

また、第2～4時の3時間は、調べる範囲や方法を共有した上で、児童が自由に時間を使って調べることができるようにした。情報収集が苦手な児童は、必要な知識を穴埋め形式にしたワークシートを活用したり、仲間と協働する場面で教えてもらったりするなど、効率的な情報収集の仕方や困ったときの解決法を自分たちで考えることができた。この3時間の情報収集や第5時のミニテストがあったことで、児童は事前にごみ処理の過程を概ね知ったり、目的を意識した質問を考えたりして、第6～8時の見学・調査に臨むことができた。

形成的な評価では、主に複数回のアンケートやミニテストの実施によって教師の指導改善や児童の学習改善につなげることを意識した。学習前のものに比べ、単元終了後のアンケートでは、ごみに対するイメージをより具体化している記述が多く見られた。そして、「社会科の学習が好きだ」と答えた児童が増えたことが何よりの成果である。

研究内容と本単元との関連 研2 形成的な評価 学習指導案 5, 6 ページ参照

複数回のアンケートの実施 → 子どもが自身の興味・関心の高まりや、自身の学びを自覚する 【主】

ミニテストの実施 (5 h) → 子どもが、自身の学び足りない知識を理解し、学習改善につなげる 【知】

評価計画	知	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	思	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	感	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

・「見方・考え方」を働かせて学習課題を設定する。→「思・判・表」
 ・単元の見通しをもつ。→「主体」

・資料や動画、施設見学から、必要な情報を集め、まとめる。
 →「知・技（総括）」の評価を中心としながら、「思・判・表」「主体」の形成的な評価も行う。

・学習問題に対して、ごみの処理について具体化してまとめる。
 →「思・判・表（総括）」
 ・学習を振り返り、自分の立ち位置を把握する。→「主体（総括）」

(※授業当日の研究概要説明より抜粋)

また、第5時には、第2～4時の情報収集が適切にできていたか、自分で学習を調整したり、粘り強く取り組んだりしていたかを形成的に評価するためにミニテストを実施した。

テストの結果から、自分の学習方法を見直して、間違えたところの直しをすることができた。また、ミニテストの設問や副読本、資料などには載っていないような細かなごみ処理の様子や働く人の様子、自分たちの生活との関わりについて質問したいと考える児童が増え、結果的に社会科見学の質が向上し、見学で得た体験や感動が児童のさらなる問いや、やる気を引き出すことができた。

児童 A の変容

< 5 時間目の振り返りより >

- ミニテストは概ねできた。テストに向けての情報収集を工夫した。
- 教科書にある「学び方コーナー」を意識して見学したい。

< 児童 A が「未来創造ポスト」に提案した内容 >

社会科見学で①分別が守られていないこと②家具、ビンなどが多く捨てられていることを知った。
 →① 市民が確実に分別できる表の作成，各機関で配布してほしい！
 →② 家具などの不用品を売る店やイベントを増やしてほしい！

< 形成的な評価 >

- これまでの学び方や振り返りの記述から，頑張りを認める評価，声掛け。
- 「わくわくプロジェクト」に向け，自分をもっと知りたいことや生活との関わりについて調べていくように指導。

< 見学・調査の振り返り >

- ごみの処理の方法や過程がよく分かった。
- 教科書には詳しく載っていなかった「働く人」について質問をしたり，自分たちの生活との関わりについて具体的に調べたりすることができた。



(3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について

本単元では、一定の目標（B 規準）を全ての児童が達成することを目指し、指導の個別化を図ったり、異なる目標に向けて、学習を深め、広げることができるよう学習の個性化を目指した学習活動や課題に取り組む機会の提供を行ったりした。また、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す協働的な学びについても個別最適な学びと行き来しながら一体的な充実を図ることをねらった。

指導の個別化における成果としては、形成的な評価を基に各児童に適した指導や支援をすることができたことである。さまざまな手立てから自分に合った方法を選択し、学習を進めることができた児童は、確実に B 規準を達成し、より資質・能力の向上を追究する学習姿勢が見られた。一方で、低位の児童にとっては、効率よく学習を進めていくためにどのようにすればよいか迷っている様子も見受けられた。自らの学習状況を客観視したり、用意された学習方法を使いこなしたりする力や、力を発揮できる場面の設定が必要であると考えた。

学習の個性化における成果としては、単元構成の工夫により、ごみの処理と自分たちの日常生活との関わりについて考えさせることができたので、児童の興味・関心を途切れさせることなく、単元の終末に向けて高めることができた。ただ、「孤立した学び」にさせないために、なぜその課題に興味をもち、解決しようとしたのかを語らせたり、表現させたりすることで、学びの広がりや深まりを支援することができたので、今後の実践の課題としていきたい。

協働的な学びの成果としては、1 単位時間の中でも個人や集団での学び方を「学習の流れ」として、集団での課題共有、個人での情報収集、集団での情報共有、個人での課題解決という流れを基本とし、学習過程や時間配分、評価の場面や方法等を児童と共有しながら決定していくことで個別最適な学びや協働的な学びのよさを感じ取らせたり、そのための素地を養ったりすることをねらった。情報収集の時間や単元の終末部分で積極的に取り入れたが、児童も主体的に学習過程について考え、自分や学級の学び方を客観視することにつながったのは成果である。課題としては、協働する場面での手順や発言の仕方、相手の考えを聞いて、生かす方法等についての指導が必要であると考えた。また、児童自身が

「話し合おうと、こんなことができた、分かった」という言葉で話す場面を設定し、学級全体で共有できることで、協働的に活動する目的や必要感が高まることが期待できる。

児童 B の変容

<学習前のアンケートより>

- 「情報収集」、「学習問題を追究する」、「学習を振り返る」の全てで「苦手」と回答している。

<個別最適な学び、協働的な学び>

- 情報収集の際の「お助けシート」や友達との協働（ごみ処理の過程について分かったことやどこを見て情報を集めたらよいかを教えてもらう）
- 調べたことと自分たちの生活との結び付きについてどう捉えているか形成的に評価しながら、社会的な見方や考え方を働かせるような手立て、声掛け

<単元終了後のアンケートより>

- 資質・能力に関わる質問については、全て「苦手」→「どちらでもない」に変容
- 「私はごみを減らしたい」→減らしたい理由として「働いている人や自然を守るため、住みよいくらしにするため」と記述

児童 C の変容

<普段の学習姿勢、単元前半の学習の様子より>

- 元々の学習意欲が低い。
- 5時間目までは、「B」の評価に達していない。

<個別最適な学び、協働的な学び>

- 指導案に明記されている個別最適な学び（特に学習の個性化）と協働的な学びを実現する手立てを一つ一つ確認し、粘り強く実践
- 情報収集や整理・分析の際に積極的に ICT を活用できるように使い方や効果を提示

<単元終了後>

- 単元の総括的な評価では、全ての観点で「B」評価規準に到達
- 「わくわくプロジェクト」では、学習したことを基に自分たちにできることを自分で考えようとするなど、主体的な学習姿勢であった